

1 災害時逃げ遅れゼロ作戦の実施結果について

(1) 背景及び目的

今後発生が予想される南海トラフ地震や風水害等による大規模災害に備え、防災士が各区・自治会の自主防災組織や自治振興会と協力しながら地域防災力の向上、早期避難の強化を図り、災害時の逃げ遅れゼロを目的とする。

(2) 報告数

各町	地域種別	総数	実施数	実施率
水口	区・自治会	90	28	31%
土山	区・自治会	44	14	32%
甲賀	区・自治会	23	18	78%
甲南	区・自治会	25	13	52%
信楽	区・自治会	21	10	48%
全体	区・自治会	203	83	40%

※令和5年3月9日現在

2 地区防災計画について

(1) 地区防災計画とは

平成25年6月に災害対策基本法が改正され、市町の地区内の居住者による主体的な活動に関する計画が「地区防災計画」として位置づけられました。

(2) 市内地区防災計画の例と特徴

①多羅尾区

居住区域のほとんどが土砂災害警戒区域に該当する。自主避難の目安となる知見を写真付きで分かりやすくまとめている。令和5年度で多羅尾豪雨から70年となるため、防災啓発講演会を企画している。

②虫生野区

区民一人ひとりの防災意識の重要性について提唱し、ハザード別のフロー図、タイムライン等を多用し、役割を決めず、参集したものから役割を充てる方式にしている。近年は夜間避難訓練の実績がある。

③杣中区

地区の特性（近辺に杣川、滝川が流れている）に応じて堤防の決壊などの災害を予想し、これに対応する防災対策や地域防災訓練の実施、また訓練後は計画を見直す旨について計画に記載している。